

第2章

カーペットの 選び方とお手入れ方法

1 選び方の流れとポイント

第1章の「カーペットをおすすめする10の理由」では、カーペットの特徴や魅力について述べてきました。そこで第2章では、用途や目的に応じた商品の選び方やお手入れ方法のポイントについてご紹介します。

【第1章のまとめ】暮らしの中で感じるカーペットの効果

⑨ 勉強に集中できる環境 26頁

④ ホコリの舞い上がり抑制 16頁

⑦ 静かな歩行音 22頁
(床衝撃音の遮断、低発音)

トピックス：
反響音の防止 31頁

③ 素足での気持ちよさ 14頁

⑤ ストレス緩和 18頁
(リラックス効果)

⑧ 眩しさ防止 24頁

⑩ ペットにも
安心・快適 28頁

① すべり防止 (歩きやすさ) 10頁

② 転倒時の衝撃吸収性 12頁

⑥ 足が疲れにくい 20頁

トピックス：ヒートショック防止 32頁

トピックス：断熱性・省エネ効果 34頁

用途に合わせた快適性能

- はっ水性 (45頁)
- 防炎性 (50頁)
- 低VOC
- 静電気防止
- その他機能加工 (抗菌、防ダニ、消臭、抗ウイルスなど)

“叶えたいことから考える”ことが、カーペット選びの重要なポイントです。敷きたい場所をどんな空間にしたいか、どんな敷き方にするのかを大まかに決めながら、素材や性能、色柄を絞り込んでいきます。

一般的な選び方の流れ

- 1

敷きたい場所は？

初めに、使用する場所や用途を決めましょう。商品選びの基準ができるので、後の作業がスムーズになります。

(寝室、居間、ダイニング、子ども部屋。ワーキングスペースなど)
- 2

どんな空間にしたいですか？

場所の次は、過ごし方や困りごとに関する改善点などを明確にしています。敷き方や形状、大きさにも関わるので、詳しくは42頁を参照。

(ホテルのようにしたい、寝ころびたい、一年中使用したいなど)
- 3

どんな性能が欲しいですか？

②の要望に適した性能や機能性を選んでいきます。最近ではお手入れ方法や床暖に関する質問が多くなっています。

(汚れが付きにくく取れやすい、赤ちゃんにも安全なもの、防音など)
- 4

仕上がりイメージは？

場所や使用するイメージが決まると、次はテクスチャーです。種類によっては足裏の感じ方や、見た目の印象も変わります。44頁を参照。

(カットパイル、ループパイル、カット&ループパイルなど)
- 5

どんな素材がいいですか？

ここまで来れば、後は素材やデザイン選びで完了です。素材は耐久性や価格に影響しますので、それぞれの特徴を理解しましょう。

(天然繊維-ウール、綿や麻など/合成繊維-アクリル、ナイロンなど)
- 6

色や柄の好みは？

最後は絞られた商品の中から、好みに合った色や柄をじっくりと選んでいきましょう。家具やカーテン、照明環境との調和がポイントです。

(無地、柄物、暖色系、寒色系、ナチュラル、モダンなど)

2 シーン別の選び方

安全性を高め会話が弾む空間づくり

① ダイニング

お手入れが簡単

ガラスコップを落としても割れにくい、椅子を動かしても嫌な引きずり音がないなど、ダイニングでカーペットを使用するメリットはたくさんあります。

清潔さを重視するなら、消臭機能や防水性能を持つ商品、床から取り外して洗えるタイルカーペットなどがおすすめです。

家具脚によるへこみ対策としては、糸自体の回復力が高いウールやナイロン素材が適しています。

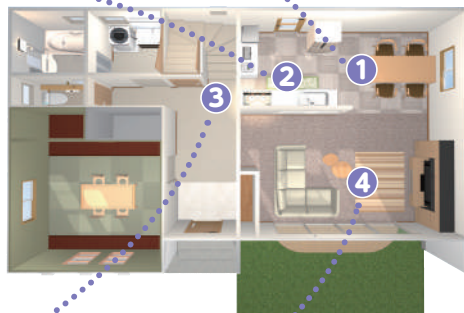


② キッチン

家事の疲労を和らげる

立ちっぱなしで家事をこなす方の足腰にかかる負担をマットなどが軽減。フローリングの上に敷けば、食器の破損や床の傷つきを防ぎます。

動線に合わせた形状で、防水性能や洗えるタイプのものなど、お手入れのしやすいものをおすすめ。最近はキッチンにもカーペットを敷きつめる人が増えています。



③ 廊下・階段

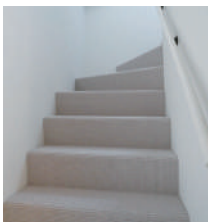
すべりや疲労を軽減

よく歩く廊下や階段にこそ、安全性や疲労を和らげるカーペットがおすすめです。

短い毛足で繊維量が多く、耐久性（へたりにくさ）に優れたカーペットを選びましょう（60頁参照）。

施工はフェルトブリッパー工法（67頁参照）や接着工法が一般的です。

施工については専門業者に相談しましょう。



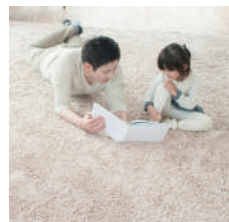
④ リビング

会話が弾むリラックス空間

くつろぐ時間が長いリビングでは、自由気ままに座ったり、寝転んだりしてリラックスできるカーペットが、家族との団らんをより豊かなものしてくれます。

手触りの良い素材、ラグジュアリーなデザイン、ふかふかの踏み心地が味わえるものなど、あなたのお気に入りを見つけてください。

全面敷きやセンター敷きにすれば、光の反射や音の響きを抑える効果も大きくなり、さらにリラックス感はアップします。



疲れを和らげ穏やかに過ごす

⑤ 子ども部屋

安全で健やかな成長を育む

階下への音を軽減したり、転倒によるケガを防ぐなど、成長を育む空間にカーペットは最適なアイテムです。安心・安全に加えて、反響音やホコリの舞い上がりを抑える性能が、学習効果や快適性をさらに高めます。

ラグや自由に並べることができるタイルカーペットであれば、汚れても敷き替えることができます。全体に敷きつめれば、好きな所に寝転んで自由な発想で遊ぶことができます。最近では抗ウイルス性能など健康に配慮した商品も登場しています。



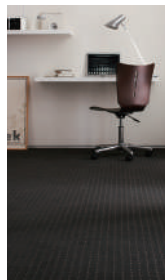
⑥ 書斎

静かで集中できる空間づくり

書斎に求められる静かで集中しやすい室内環境づくりにカーペットは貢献できます。

繊維量が多いものを部屋全面に敷くことで、吸音効果はさらに向上。

椅子を使用する場合は、キャスター走行性に優れた小粒のループパイルカーペットがおすすめです。



⑦ 寝室

快適な睡眠環境を整える

寝室は一日の疲れを取り、明日への鋭気を養える大切な空間です。カーペットは静寂性や間接照明による演出性を高めるなど、快適な睡眠環境を実現します。

より効果を高めるためにも、繊維量が多い商品を、フェルトグリップ工法による全面敷きで使用することをおすすめします。

木床の場合は、ベッドサイドにマットを敷くことで冬場のヒートショックを抑えることもできます。

スタイリッシュな家具とのコーディネートで、ホテルライクな空間を演出できるのも寝室ならではの楽しみ方です。



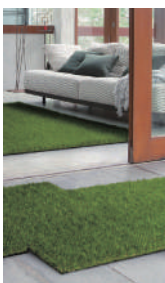
⑧ ベランダ

人工芝でガーデン気分を演出

ベランダや庭では、ガーデニングやバーベキューパーティなどの人気が高くなっています。

人工芝を敷くことで、踏み心地も良くなり、日光の照り返し抑制にもなります。

施工については専門業者に相談しましょう。



3 カーペットの種類と特徴-1 (敷き方・形状)

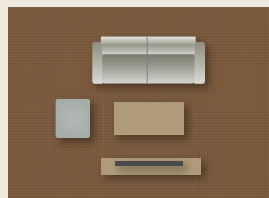
敷き方の違い

全体に敷きつめる 全面敷き



壁際から壁際まで部屋いっぱいには敷きつめる方法で、ウォール・トゥ・ウォール(wall to wall)とも呼ばれています。全面に敷くことで部屋全体の空間が広がり、段差もないことから掃除機もスムーズに動かせます。前章「おすすめする10の理由」で紹介したカーペットの魅力を最大限に実感することができるでしょう。

全面敷きはロールカーペットでも、タイルカーペットでも可能です。どちらも直貼りはもちろん、下地にアンダーフェルトを入れることで、「防音性」「断熱性」をはじめ、「安全性」「耐久性(へたりにくい)」「クッション性」等、更なる性能アップが見込まれます。タイルカーペットでは、専用のクッション材を用いてください。



一回り小さく敷きつめる センター敷き

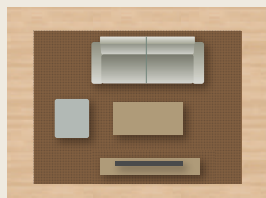


部屋よりも一回り小さいサイズのカーペットを用意して敷くことをいいます。廊下や階段でのセンター敷きは「ランナー敷き」とも呼ばれます。

明治期に流行った敷き方で、寄木や大理石の床に敷き、壁際までの間(数10cmほど)をおしゃれなボーダー柄として見せます。部屋にある筆筒等の重い家具を移動しなくても、敷き替えが簡単にできるのはメリットの一つ。

ロールカーペットでも、タイルカーペットでも、好みのサイズでカスタマイズでき、下地にアンダーフェルトやクッション材の使用も可能です。

カーペットによっては、周囲がめくれてしまう場合がありますので、専用の粘着テープなどで固定するようにしてください。



部分的なアクセントにする ピース敷き

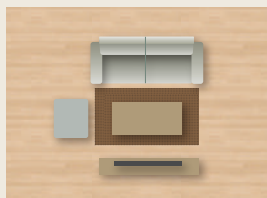


ソファやダイニングテーブルなどの足元に敷き、部屋全体というより、あるゾーンだけの空間づくりに対応する敷き方です。

一般的にラグはこの敷き方に分類されます。カーペットの上にピース敷き(重ね敷き、カーペット・オン・カーペット)するのは、たるんだりずれたりすることが多いので、避けた方がいいでしょう。

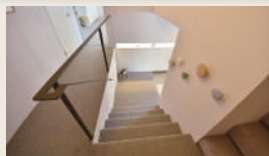
玄関や、キッチン前、ベッドサイド等に小さなサイズでアクセントとして敷く方法も、ここに分類されますが、「マット敷き」と呼ぶこともあります。

「ピース敷き」サイズの商品は、裏面にすべり止め加工をしているものが多いです。



形状の違い

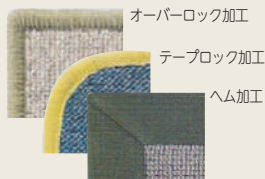
好きなサイズに対応できる ロールカーペット



「ロールカーペット」は、丸巻き形状のカーペットで、部屋の大きさや形に合わせてオーダーすることができます。

全面敷きやセンター敷き、ピース・マット敷きなど、あらゆる形に対応できます(商品や販売店によっては対応できない場合もあります)。

通常は、カーペット周囲のカット端面のパイルほつれ防止目的で「縁かがり加工」を施します。加工方法にはオーバーロック加工やテープロック加工、ヘム加工(写真上から順に)などがあり、装飾性が高まります。



並べて外せて収納できる タイルカーペット



「タイルカーペット」は、パネル状(1枚50cm角など)のカーペット。ロールカーペットと同様に、全面敷きから、マット敷きまで全て可能です。

家庭向けでは40cm角の商品も多くあり、軽くて取り扱いも容易。裏面はフェルト(すべり止め加工付き)のものが多く、フローリングの上に簡単に敷くことができます。クッション性が高いのも魅力です。

お好みのデザイン貼りができる、いつでも、自分で簡単に模様替えができます。汚れた部分だけ取り外して洗うことができるのも大きな特長です。収納しやすいので、季節や暮らしに合わせて簡単に出し入れすることができます。



用途に合わせて自由自在 ラグ&マット



4.5帖や6帖など、畳のサイズを基準とした定型サイズのカーペットを「帖物(ピース物)」と呼ぶのに対して、概ね3畳以下のサイズ(2m×1.4m、2m×2m、2m×2.5mなど)のものを「ラグ」、1畳までの小さいサイズ(50cm×80cm、70cm×120cmなど)のものを「マット」と呼んでいます。ただしはっきりとした区別はありません。

ソファの足元やキッチン、玄関、洗面や浴室前をはじめ、ベッドサイドなど用途や好みに合わせて使い分けることができます。

最近では、円形や変形サイズ、希望に応じて大きさやテクスチャーが選べるセミオーダー方式の商品も増えています。



3 カーペットの種類と特徴-2 (テクスチャー・素材)

テクスチャーの違い

カットパイル



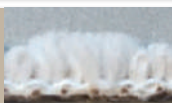
踏み心地が良くソフトで柔らかい肌触り。毛足は5～50mmと幅広く、目の詰まったものは高級感が出ます。シャギーやファーなども含まれます。特にウールの無地物は上質感があり、室内が落ち着いた雰囲気になります。

ループパイル



スッカリとした足触りで弾力性があります。長く使用しても外観の変化が比較的少なく、お掃除もしやすいので、年間を通じた利用に適しています。家具跡の跡が気になる場合は、復元性に優れたウールやナイロンなどがおすすめです。

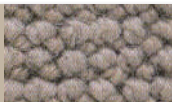
カットアンドループ



カットとループのそれぞれの長所を併せ持っています。最大の魅力は豊富なデザインで、同じ糸を使ってもカットとループの比率の違いでまったく表情が変わります。お部屋の雰囲気に合わせてコーディネートを楽しむことができます。

素材の違い

ウール



- 冬は暖か、夏は涼しい。吸放湿性が高くサラサラ感がある。
- 繊維自体に消臭機能や水を弾く性能があり、汚れがつきにくく取れやすい。
- 復元性もあり、高級感があってリラックスできる。

綿



- 吸水性があって肌触りが良い。
- 黄ばみやすいが熱に強い。
- 綿混ラグなど、清涼感があって、夏に最適。

レーヨン



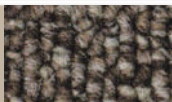
- 主原料は木材パルプであり、再生繊維と呼ばれる方もする。
- 吸水性があって肌触りがよく、絹のような光沢感がある。
- 混紡品で特徴を出している。

アクリル



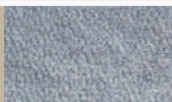
- 鮮明な色表現が可能で、色あせも少ない。
- ウール似の柔らかな風合いがある。
- ソフト感など最もカーペットらしい素材。

ナイロン



- 土足対応として使用されるほど、耐久性が高い。
- 復元性が高いため、歩行量の多い部分や家具跡の心配な箇所に最適。
- 染色物は色あせしやすいものもある。

ポリエステル



- 丈夫で安価。汚れが取れやすい。
- 耐熱性があり、日光や薬品にも強く、虫害も受けない。
- 糸の太さなどの工夫で、いろいろなタイプのカーペットに適用可能。

ポリプロピレン



- 色あせしにくく、汚れに強いが、へたりは回復しにくい。
- 吸水性がないので、水性汚れには強い。
- 安価な糸なので、家具跡の心配のない部位にはお買い得。

カーペット選びの『豆知識』

■ ウールカーペットの魅力

ウールカーペットは、元来備わっている半永久的な「はっ水性」により、ホコリや汚れを、パイルの奥底まで入らずに表面近くでキャッチします。そのため、遊び毛が出やすい反面、掃除機がけをすることでホコリや汚れを効果的に除去でき、他の繊維と比較しても、長期間美観を維持することができます。

■ パイル密度の高いものを見分けるポイント

第1章「カーペットをおすすめる10の理由」の効果により発揮するためには、繊維量の多さはもちろん、できるだけ「パイル密度」が高いものを選びましょう。「パイル密度」が少ないとへたりが早く、「10の効果」が持続しません。「パイル密度」を見分ける方法は、指先でカーペット表面を強めに叩いたときの底を突いている感覚（底突き感）で判断できます。指先に底（下地）を感じるようであれば密度は低く、感じにくければ密度は高いということになります。

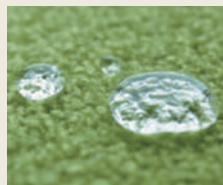
■ アンダーフェルトの効用

フェルトグリッパー工法では、アンダーフェルト(右図)の効果により「クッション性」だけでなく、「防音」「断熱」をはじめ、「安全性」「耐久性（へたりに）」などの性能がアップします。部分敷きで使用する場合は、めくれを抑えるためにカーペットの大きさより数cm程度小さめで、できればウレタンクッション材などの復元力が持続するものを選びましょう。



■ はっ水性(撥水性)

汚れを防止する性能には、「汚れを付きにくくする」「汚れを取りやすくする」ことなどがあり、それらを総称して「防汚性」と呼んでいます。そのなかで、水を弾き、水性汚れが付きにくく、パイル内部への侵入を防ぐ性能を「はっ水性」といいます。ウールのように元来備わっている繊維もありますが、フッ素樹脂などによる「はっ水加工」により、性能を付与することもできます。



■ 防音性と断熱性

「防音性」や「断熱性」は、カーペットの厚みがあるほど高い効果を得ることができます。階下への音の対策や断熱効果としては、厚みが10mm程度以上のものを全面に敷きつめることをおすすめします。さらにフェルトグリッパー工法で施工することで、効果が高まります。室内では暖房熱の約7%が床から流出することから、断熱効果を高めることが省エネにもつながります。(23頁、34頁参照)

4 お手入れ方法-1

カーペットはお手入れが大変そう。汚れたらどうしよう…と思っていませんか？
いつまでも清潔にお使いいただけるように、正しいお手入れ方法をご紹介します。

普段のお手入れ方法

お手入れの基本は掃除機をかけることです。通常の3分の1程度のスピードで、同じ場所を2往復しながら1㎡当たり20～30秒を目安にゆっくりとかけていきます。タテ方向とヨコ方向に、パイルを起こすようにかければ空気の流れも良くなり、ゴミが取れやすくなります。できれば週2回を心がけましょう。

掃除機は、回転ブラシ付きのものが効果が高く、また、ノズルを引くときに吸引効果上がるので、引くときを意識しながらゆっくり動かします。特に乾燥した季節には、静電気が原因で、隅の方にホコリが溜まりやすくなるので、壁際に沿って入念に掃除機をかけます。終わった後は窓をあけて良く換気しましょう。

よりきれいに長持ちさせるためには、月に1回は、掃除機かけの後に固く絞った雑巾で水拭きをします。カーペットが全体的に汚れてきたと感じたときは、薄めた中性洗剤（水2 Lに洗剤を数滴）で絞った雑巾で拭きます。その後は、すすぎ（お湯で固く絞った雑巾で拭く）を忘れないようにしてください。洗剤が残っていると汚れやすくなります。

汚れがひどくなった場合には、カーペットのクリーニング業者にご相談ください。



カーペットのクリーニング・メンテナンスはIICRC認定会社にご相談を

IICRC (Institute of Inspection Cleaning and Restoration Certification、本部：アメリカ) は、カーペットの専門知識・技術を認定する団体。世界20カ国（アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリス、日本など）6,800以上の企業と6万人以上のテクニシャンがIICRCから認定を受けて活躍中です。

IICRCの日本オフィス、日本カーペットクリーナーズアカデミー (JCCA) のホームページでは、IICRC認定会社を紹介しています。カーペットのクリーニング・メンテナンスはプロクリーナーを擁する認定会社にご相談ください。

■ IICRC JAPAN / 日本カーペットクリーナーズアカデミー
TEL.0568-71-0701 <http://www.japan-carpet.com>



シミ取り方法

カーペットについたシミは、時間が経てば経つほど取れにくくなります。家庭でできる範囲でのシミ取り方法をご紹介します。ごしごし擦らずに、タオルで叩いたり、押し付けたりして取るのが秘訣です。



◆シミの判別とシミ取りの手順、注意点

(1) 何かをこぼしたら、まず……………

- ① 液状のものなら、すぐに乾いたタオル（白色）やティッシュで吸い取ってください。こすらずに、周囲から真ん中を集めるように、叩きながら吸い取ります。
- ② マーガリンのようなドロドロしたものなら、フォークやスプーンなどで除去するか、つかみ取ってください。
- ③ 粉状のものは、掃除機で吸い取ってください。

(2) 次に、シミの種類を確認する……………

シミが水性のものか油性のものかによってシミ取り方法も違ってきます。濡れタオルの端をシミに当て、シミが移ってくるようなら水性です。どちらか分かりにくい場合は、油性のシミ取り剤を使ってください。

水性シミの例 …… 醤油、ソース、ケチャップ、チョコ、ジャム、お酒、コーヒー、墨汁 など。

油性シミの例 …… バター、マヨネーズ、食用油、卵、マジックインキ、ペンキ など。

(3) シミに応じたシミ取り剤を用いる……………

水性シミには、洗剤または水性シミ取り剤、油性シミには、洗剤、ベンジンまたは油性シミ取り剤を用います。

シミを取るために使用する洗剤やベンジンも、シミの原因になりますので、必ず水で十分に薄めて使用してください。

また、ベンジンも少しずつ使うようにしてください。市販のシミ取り剤には、「油性用」「水性用」がありますが、兼用のものもあります。

※注：ベンジンは、火気厳禁で、使用するごとに容器のフタを閉めてください。

(4) 洗剤は、「中性洗剤」で……………

酸性やアルカリ性の洗剤は、パイル繊維を変質させたり、変色させたりすることがあるので使用しないでください。

おすすめする 市販の中性洗剤の例

- 「アクリン」 （ライオン社製）
- 「エメール」 （花王社製）

4 お手入れ方法-2

◆シミの判別とシミ取りの手順、注意点

(5) 洗剤やシミ取り剤は、 カーペットに直接付けない……………

いずれのシミ取り剤も、カーペットに直接使用するのではなく、タオルに少量ずつ付け、シミ部分をたたいてタオルに移します。また頑固なシミは一度に取ろうとせず、繰り返し少しずつ丹念に取ることが肝心です。



(6) シミを広げない……………

必ず周囲から中心に向かって拭き取ってください。結果を急いでシミ取り剤を多量に使用すると、シミを広げることにもなりかねません。

(7) 水分や洗剤を残さない……………

洗剤で拭いた後は、固く絞ったタオルで残った洗剤を完全に拭き取り、少量の水分を含ませたティッシュで拭き取ったうえで、更に乾いたタオルで水分を吸い取ってください。洗剤が残っていると、再び汚れる原因になります。最後にパイルの方向をブラシ等で揃えながら扇風機などで乾燥させます。それによって、色流れによる変色を防止することができます。

(8) スチームクリーナーによる洗浄……………

全体的に汚れてきたと感じたときには、スチーム洗浄が有効です。スチームは常温水より洗浄効果が強く、パイル倒れの復元にも役立ちます。また除菌や消臭効果も期待できます。ただし必ず先に掃除機をかけてから行うようにしてください。また、高温のため、パイルを傷めることがありますので、カーペットの目立たないところで、試してみることをおすすめします。

感染症防止の薬剤に注意！

One
Point

厚生労働省から新型コロナウイルス感染防止に有効な除菌剤や消毒剤が紹介されていますが、薬剤によっては、カーペットに使用した場合に繊維の変色や劣化のおそれがあるので注意してください。

使用を避ける薬剤は、次亜塩素酸ナトリウム、次亜塩素酸水、中性以外（酸性、アルカリ性）の界面活性剤で、アルコール消毒剤については少量なら問題ありませんが、多量に使用するのは避けてください。

● 長持ちの秘訣は、まずは湿気を含ませないこと ●

カーペットを長持ちさせるために大切なことの一つは、湿気を含まないように保つことです。ふだんから換気を良くし、湿気がこもらないように気をつけます。天気の良い日には窓をあけ、掃除機をかけます。この後、置き敷きカーペットやラグなら、裏返しにしたり、下に椅子などを差し込んで、裏側にも風が通るようにすると効果的です。カーペットをよく乾燥させておくと、ホコリがとれやすく、パイルの傷みも少なくなります。

● カーペットを屋外に干すときの注意点 ●

丈夫な物干し竿に、まず表を外側に向けて干します。日光による色あせを考慮して、必ず陰干しします。ある程度湿気がとれたら、ふとんたたきを使って中のホコリを出します。次に裏返しして干します。両面あわせて2～3時間くらいで良いでしょう。取り入れた後は、両面に掃除機を丁寧にかけます。干している間はカーペットが敷いてあった場所を掃除し、風を通しておくことを忘れないでください。

● 使っていたカーペットを上手に保管するには ●

晴れた日を選んで行います。特に何日間か晴れた日が続き、空気が乾燥した日がベストです。上記の「屋外に干すときの注意点」に従って乾燥させます。保管に際しては、表向きに巻いて、寝かせて保管することをおすすめします。除湿剤の利用も効果的です。半年に一度は、広げて虫干ししましょう。

● 凹んでしまったパイルを直すには ●

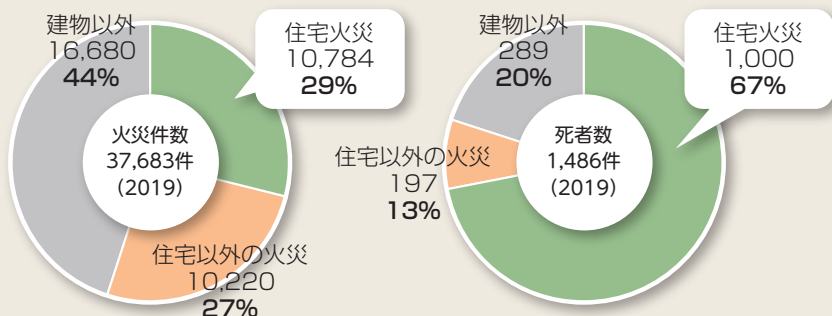
家具跡などの凹みを直すには、お湯を含ませたタオルで水分を与え、少し距離を空けてヘアドライヤーで乾かすと、ある程度回復します。スチームアイロンをタオルの上から軽く当てることでも可能です。

5 防災品について

● 住宅火災による死者数では「たばこ」の火の不始末が最も多い

火災事故はほぼ毎日のように報道されていますが、全火災のうち、住宅火災の件数が約3割を占め、死者数では約7割を占めています。[図1]

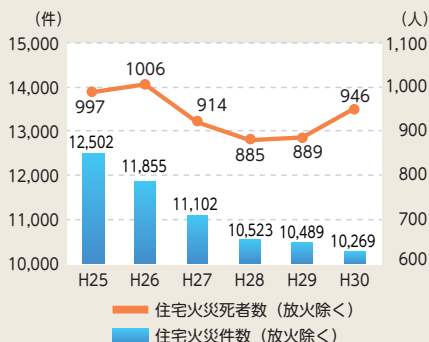
[図1]



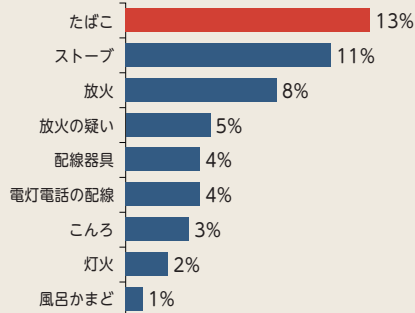
総務省消防庁：消防白書

住宅への火災報知器設置が義務化されて以降、火災件数は減少していますが、死者数（特に高齢者）は微増傾向にあります [図2]。死者の発生した住宅火災の出火原因では「たばこ」の火の不始末が最も多く [図3]、床材との関わりにおいても注意が必要となります。

■ 住宅火災の発生件数と死者数の推移 [図2]



■ 死者の発生した住宅火災の出火原因 (2018) [図3]



総務省消防庁：消防白書

●「防災ラベル」の付いたカーペットが安心

消防法で定められた「防災規制」では、高層建築物や不特定多数の人が出入りする建物では火災の発生及び拡大を防止するために、防災加工を施したカーペットや布製品などの使用が義務付けられており、それらには「防災ラベル」を貼付することになっています。個人住宅では高層マンションでない限り使用義務はありませんが、「たばこ」の火の不始末による死亡火災が多いことから、身近で使用するカーテンやカーペットに燃えにくいものを選ぶことは、命を守ることにもつながります。

下の写真は、左が防災性能のあるもの、右が防災性能のないもので、それぞれのサンプルに着火させ、8分経過した際の燃え方を実験したものです。防災性能のあるカーペットであれば、万一このようなことが起こっても燃え広がらず、被害も最小限で済むことが分かります。

〈着火後8分経過した状況〉



防災性能のあるもの

防災性能のないもの

出典：(公財)日本防災協会HP

消防法で、防災性能の基準に合格したものには「防災ラベル」の付与が許可されます（「防災物品」と呼びます）。このようなことから、安全・安心のためにも、カーペット購入の際には、防災物品のカーペットをおすすめします。

また、(一社)日本インテリアファブリックス協会では、消防法の基準に合格した製品に対し、独自の防災マーク（NIFマーク）を付与することを制度化しています。



防災ラベル



NIFマーク

